ヤナセオートシステムズ

内製ＢＰセンターで水性化

全国９カ所、環境対策を強化

ヤナセオートシステムズ（木田春夫社長）は、全国9カ所の内製ＢＰ（板金・塗装）センターで使用する自動車補修用の塗料（ベースコート）を、溶剤塗料から水性塗料に切り替えることにより、環境対策を強化する。4月には一部の特殊塗装を除いた水性化率がほぼ100％に達し、6月1日から全面的に水性塗料に移行している。

同社が水性化を推進する理由に、環境負荷軽減の取り組みは、自動車ビジネスに携わる企業の社会的責任であること、作業担当者の安全衛生・健康面に配慮できること等を挙げている。

水性化の取り組みは、2007年4月にデュポン（現・アクサルタコーティングシステムズ、以下アクサルタ）とヤナセの両社が、同業他社に先駆けて合意した協力関係のもとで進めていた。しかし、当時の水性塗料では、ヤナセが要求する品質水準の安定的な達成や、施工技術のノウハウ確立が困難だったため、一時中断した。その後、2011年からアクサルタの水性塗料が第3世代に進化。施工・仕上がり時の品質も大幅に改善したことにより、同社は、塗料水性化に再挑戦していた。

まず、「ＢＰセンター戸田」（現・ＢＰセンター三郷）で実績を重ね、施工ノウハウを独自の研修プログラムとして構築し、トレーニング手法をマニュアル化してきた。さらに、調色配合のデータベースを全9工場で共有することで、作業品質の改善にも取り組んだ。

次の展開として、全国約230カ所の契約ＢＰ工場の塗料水性化を推進していく。実現に向け、アクサルタと協働で内製ＢＰセンターでの水性塗料のトレーニングを行う。さらに、全国の内製ＢＰ工場に契約ＢＰ工場の作業担当者を受け入れ、職場内訓練で技術を磨いてもらう。また、内製ＢＰ工場で蓄積した調色配合ＤＢの提供などを通じて、水性化をサポートしていく。

◇

同社が業界に先駆けて水性化を推進するひとつに、輸入車のベースコートは水性塗料が主流ということもある。同社の基本方針に「事故車修理において、メーカーが提供している車両本来の性能復元を目指す」としており、どうしても溶剤塗料での修理では、方針との差異が生じてしまう。このため、水性化は必須の条件であった。

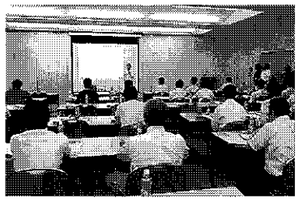
大阪塗料工業

社外会場で初開催

木部用など新製品発表会

大阪塗料工業は、新製品発表会を6月18日午後1時20分より大阪府門真市の大阪府立門真スポーツセンター多目的ホールで関西地区の取引先など招き開催した＝写真下。

製品説明に先立ち長谷社長があいさつ＝写真右＝し「はじめて社外の会場を借りて新製品発表会をすることになりました。当社は建築木部・木工用塗料を製造販売して、昨年創立70年を迎えました。大阪に本社がありながら、市内をはじめ近郊の販売店、塗装店の皆様に製品PRが不十分であるとの反省のもと、皆様にお声を掛けてしっかりご提案することが大事ではないかという思いでこの場を設けました。これからも当社は木部を追い続けて100年企業を目指し、時代の流れやニーズに合った塗料を製造販売してまいります」と述べた。



製品説明ではまず屋内木部用水性顔料系着色塗料「マルチステイン」と木材保護塗料「ニューボンデンシリーズ」の紹介があり、参加者は2種類の塗料を刷毛とローラーで塗装体験した。次いで新製品紹介では自然塗料「ユーロワンデークリヤー」の紹介があった。製品の概要は次の通り。

「マルチステイン」は、オイルフィニッシュのような鮮明な仕上がりで多用途に使える。上塗りが不要で、塗りっぱなし可能な着色塗料。またシラーレスで水性ウレタン、ラッカー、弱溶剤ウレタン、1液・2液強溶剤ウレタンのクリヤー塗装も可能。キーワードはマルチ性（多様性）、作業性、仕上がり感、安全性。

「ニューボンデンシリーズ」のニューボンデンDXは耐候性をさらにアップ。F☆☆☆☆相当品。JASS18M－307規格適合品（WPスティン）。業界で唯一となる防蟻剤・防藻剤配合製品。

水性ニューボンデンは、低臭、半透明タイプで色のトマリがいい。1回の着色力が溶剤系の2倍以上。乾燥時間は4時間（23℃）と速乾。こちらも業界で唯一となる防蟻剤・防藻剤配合製品。

国産自然塗料「ユーロ」は20年の歴史があり、今回新製品「ユーロワンデークリヤー」をシリーズに追加ラインナップする。安全性では、トルエン、キシレン、重金属を含まず、食品安全法第257号試験（おもちゃまたはその原料などを検査する試験）合格。ホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆を取得。

特長は、3分艶仕上げの速乾タイプ。ワックス成分にカルナバワックスを配合することで耐摩耗性を向上させた。4時間で乾燥するので1日で2工程が可能。作業性が抜群。価格競争力がある。

NSKが講演会

粉じん飛散防止処理技術指針

石綿含有の建築用仕上塗材

日本建築仕上材工業会（NSK・藤井実広会長）は講演会「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」を、6月13日午後1時半から東京都千代田区日比谷公園の千代田区立日比谷図書文化館・日比谷コンベンションホールで開いた。

2006年9月1日施行の労働安全衛生法施行令で、重量の0・1％を超えて石綿の含有する全ての製品の使用が禁止されたが、それ以前に建築物の内外装仕上げとして使用された石綿含有建築用仕上塗材については、改修・解体工事において既存塗膜を除去する場合の石綿粉じん飛散防止処理技術に関して不明確な点が残されていた。

NSKでは建築研究所との共同研究で、その成果に基づき、改修・解体時における既存塗膜の種類、塗膜の劣化状況、処理工法の特徴などを踏まえ、「負圧隔離による工法」「隔離工法によらない工法」「石綿除去工事に該当しない工法」の3工法を基本とした、技術指針を作成した。

今回の講習会は、この指針が有効活用され、関係者の知識や技術の向上に役立つようにとの考えで開かれたもの。まず、NSK技術委員長の福岡高征氏（神東塗料）が「建築用仕上塗材の概要」について講演。仕上塗材の働きと特徴、石綿との関連、塗料との比較、テクスチャー、機能と選び方、改修工事などを説明した。

続いて、芝浦工業大学工学部建築工学科の本橋健司教授が「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」のテーマで登壇。指針作成の背景や経緯の説明から始まって、適用範囲、事前調査、仕上塗材の処理工法、建築研究所での実験概要、処理工法の選定について解説した。

最後に、建設廃棄物協同組合の畠田啓三理事長が「石綿飛散防止処理技術の概要について」をテーマに説明。施工計画の作成から届け出、処理作業共通事項、隔離方法（隔離養生、セキュリティーゾーンの設置、集じん・排気装置の設置、隔離解除前の措置、隔離工法としない場合の措置、廃水処理、廃棄物処理を紹介した。

そして、最後でも相談コーナー参加者から多くの質問が寄せられて、講師が回答を行った。

あわせて、「本日は、お忙しい方々にお越しいただきありがとうございました。また、講演は、お忙しいなかお話をいただいております。この講義を明日からの講習会に活用され、お互いにお役立てしたいと思う期待しております」とあいさつした。

なお、同研究所のbサイト（http://www.e-toryo.okutoketsu.html）には、「Q&A」がもうけられ、本材料について直面する問題がQ&A形式でまとめられており、「活用を勧める

耐候性良好・低汚染・環境対応型
弱溶剤二液型シリコンウレタン塗料
ユメロック®
ロックペイント
http://www.rockpaint.co.jp

1コート厚膜形変性エポキシ樹脂塗料（下塗）
エコパワー

270人参加し盛大に

マルシン　創立50周年記念式典

マルシン（埼玉）は、創立50周年記念式典を6月10日午後4時から、東京都文京区関口の椿山荘で開催した。

建材・装飾金物の焼付塗装を幅広く手がける同社の記念すべき催しに、270人もの取引先や同社OB・OGが参加し、盛大に祝われた。

冒頭の開式挨拶において、同社代表取締役社長の近藤旭氏＝写真＝は「今日、塗装業界を取り巻く環境は、なお厳しいところがあります。2020年の東京五輪も間近に控えておりますが、環境規制も年々厳しくなっております。将来が見えづらい状況ではありますが、我々は立ち止まっていられません。会場に掲げられている『NEXT50』のスローガンの通り、次の50年に向けて動き出そうとしております。2014年には同業他社と協力して、ABA（アルミニウム合金材料工場塗装工業会）を創立いたしました。企業単体での努力はもちろんのこと、工業会を軸にしながら、日本建築仕上学会や各種業界団体とともに、高い品質と環境対応を両立したものを送り出そうと、邁進しております」とあいさつした。

続いて、遠山茂幸氏（神鋼ノース）が来賓あいさつを行った後、同社会長の近藤有氏、大澤悟氏（Off-ice OHSAWA）、野平修氏（野平外装技術研究所）による鏡開き、鈴木雅昌氏（富士化学塗料）の乾杯が行われ、祝宴に入った。

歓談の間には、同社幹部の新任あいさつ、1966年の創業以来50年およぶ歩みを回顧するスライドショー上映やマジックショーも催されて、参加者を喜ばせた。

また、あわせて近藤照夫氏（ものつくり大学）ならびに和佐見勝氏（東埼玉テクノポリス協同組合）による来賓あいさつが行われた。

そして最後には、長年の同社事業への協力御礼として、市川勇三氏（市川塗料店）に対して、同社からの感謝状が授与された。

塗装から見た木材の性質等テーマに

木塗研基礎講座に120人

木材塗装研究会（戸山顕司会長）は、6月2日午前9時半から東京都江東区の東京都立産業技術研究センター（都産技研）本部イノベーション・ハブにおいて「第28回木材塗装基礎講座」を開催。120人もの参加者を迎えて盛況を博した。

まず、開催のあいさつが実行委員長の樋川浩一氏と都産技研理事の鈴木雅洋氏から述べられたのに続いて、以下の講座が開催された。

「塗装から見た木材の性質・良い塗装のために素材のことを知ろう・」片岡厚氏（森林総合研究所）、「木工塗料の種類と工程組み・木工塗料の詳細と選択方法及び行程の作り方・」大木博成氏（玄々化学工業）、「着色剤の種類と着色方法（実演）・木材をより美しく仕上げる着色の基本・」長澤良一氏（キャピタルペイント）、「屋外木部の塗装・屋外木部塗料の種類と特徴・トレンド解説・劣化について・」小泉一胤氏（大谷塗料）、「木工塗装の欠陥と対策・塗装欠陥の解説と対策・欠陥発生の環境影響について・」村井まどか氏（東京都立産業技術研究センター）。

また「塗装関連機器設備の紹介」では、会場である都産技研の技術開発支援部の木下稔夫氏より同センターにおける塗装に関連した各種機器設備の紹介と、見学が行なわれた。

東京で建築再生展

環境適応型塗料出展で注目集め

「第21回R&R建築再生展」が、6月1日から3日までの都江東区有

マンエイ4月ルシ

全出荷4％

全用途で増

日本接着剤工業会（野川隆幸会長）はこのほど、平成28年4月のエマルション製品の生産と出荷数量を発表。（融通分を万3981t月比1・8％

平成28年4月のエマルション製品統計

単位：トン

	28年4月	27年4月	増減比(%)
全生産	43,981	43,194	1.8%
出荷	41,157	39,592	4.0%

用途別出荷

塗料	13,911	13,563	2.6%
接着	11,018	10,660	3.4%
製紙	1,747	1,710	2.2%
繊維	2,618	2,474	5.8%
土木	2,032	1,933	5.1%
粘着	5,969	5,589	6.8%